



がん診療相談室・がんサロン『ゆい』たより 初夏号 令和3年5月

コロナ禍2度目の桜が急ぎ足で通りすぎ緑がまぶしい季節ですね。何かとストレスの多い毎日ですが、美しい緑の中で深呼吸するだけでも気分が変わることもあるように思います。自分なりのちょっとしたストレス解消法を見つけられるといいですね。



新型コロナウイルス感染症とワクチンについて

新型コロナウイルス感染症が蔓延しおさまる気配がなく不安がつゆる状況です。終息のためには早急にワクチン接種が必要と言われていますが、がん患者さん、特に治療中の患者さんにとって「ワクチンを接種したほうがよいのか」「効果があるのか」「副反応は大丈夫か」「がん治療に影響を及ぼすことはないのか」など不安や疑問があるかもしれません。がんに関連する学会からワクチンに関する考え方や推奨が出されています。国内外の学会や団体における考え方、最新の文献を参考にして [ワクチンについてできるだけ正しく評価、判断できるようにQ&Aが作成され各学会*のホームページに掲載されています。](#) その中から基本的な質問について一部抜粋してご紹介します。

Q1：がん患者はワクチンを受けた方がよいのですか。

* 日本癌治療学会
日本癌学会
日本臨床腫瘍学会

**A：前向きに検討しましょう。
ベネフィットとリスクを理解し主治医の先生と相談して判断することが大切です。**

解説！

日本では治療中の悪性腫瘍は重症化因子のひとつにあげられ、優先接種の対象とされておりアメリカやイギリスでも同様です。全てのがん患者さんで重症化や死亡のリスクが高いわけではありませんが、高齢者や全身状態が著しく不良な方では死亡リスクが高くなることが報告されています。また、血液や肺の腫瘍においてリスクが高いという報告もあります。コロナワクチンには予防効果というベネフィットと様々な副反応が生じるかもしれないというリスクがあります。がん患者さんのワクチン接種の効果としては、発症や重症化の予防、検査やがん治療を遅滞なくより安全に進められることがあります。副反応についてはがん患者さんとそうでない人と比較した調査や報告はありませんが、がん患者さんにおける重症化の可能性を考えると接種が推奨されます。



令和2年度の がん相談 から

年間900件を超えるご相談を受けましたが、例年と比較するとコロナウイルス感染症の蔓延が影響したのかやや少なくなりました。相談者は女性が多く電話相談と面談による相談の割合はほぼ同じでした。相談の内容は「精神的につらくて不安」といった相談が一番多く、その次には「がんの治療、症状や副作用」が続きました。また、「先生や看護師との関係で悩んでいる」という相談が増えた印象です。がんと診断されて不安になるのは当然だと思います。治療や症状について先生や看護師にもっと詳しく聞きたいけど聞きにくいといったこともあるようです。相談員は話を伺い情報の整理や正しい情報の提供に努めています。必要な時にはソーシャルワーカーや看護師などと連携し対応しています。相談内容によっては直接問題の解決にはつながらないこともありますが、不安や悩みを言葉にして伝えることで気持ちが楽になることもあります。相談室は入りにくいという声も聞きますがお気軽にお立ちよください。



イベント開催について

今年も「ハローワーク相談会」・「社会保険労務士相談会」「がんサロン『ゆい』茶話会」を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の蔓延の状況により変更となります。5月現在、ハローワーク相談会と茶話会は休止中です。社会保険労務士相談会は受け付けをしておりますがオンラインになる可能性もあります。イベントが例年どおりに開催できるよう一日も早い終息を願うばかりです。

トピックス

今年度からがん診療相談室の相談員にソーシャルワーカーが仲間入りしました。経済的な問題や生活支援などでより専門的な連携がとれた相談対応ができるようになると思います。どうぞよろしくおねがいたします。